



## 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

今年度の全国学力・学習状況調査が4月19日に行われました。その結果が、全国や県の状況とあわせて、各校に通知されましたので、本校の傾向や今後の改善の方策などについて、お知らせします。

### ○その前に・・・全国学力・学習状況調査とは・・・

毎年、本校では、「全国学力・学習状況調査」の結果などを学校だよりや学校HPでお知らせしています。その前に、この機会にあらためて、「全国学力・学習状況調査」とは、どんな目的で、どんな内容で行われているのかを、確認しておきたいと思います。以下に、そのポイントを示します。

- 実施主体：文部科学省
- 対象となる学校・学年：全国の小中学校の最高学年全員(小6、中3)
- 調査内容：①学力(国語と算数・数学、3年に1回程度、英語や理科を加える)を問う問題  
②学習環境や生活環境を問うアンケート
- 目的：学校においては、自校の生徒の学力や学習環境・生活環境を把握・分析し、今後の指導の充実や改善に役立てる
- 実施時期：例年4月中下旬、各校による自校の結果公表は9月中

### ○本校の結果

#### 1. 学力調査(国語・数学・理科)

今年度は、国語と数学、理科の3教科で実施されました。  
右に、山梨県と全国の平均正答率を示します。  
本校の結果(平均)を、国・県と比べると、次のようになります。

	国語正答率	数学正答率	理科正答率
山梨県平均 (%)	70	51	50
全国平均 (%)	69.0	51.4	49.3

##### (国語)

- ・全国・県をわずかに下回る。
- ・全国平均の5%以内にあることから、「ほぼ全国と同等の結果」である。

・問題別に見ると、「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く」「場面と場面を、場面と描写などを結びつけて内容を解釈する」は全国を上回っている。一方で、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」については全国を下回っている。

・観点別(学力の要素)で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国と同じ水準である。

##### (数学)

- ・全国、県と同じ正答率である。
- ・全国平均の5%以内にあることから、「ほぼ全国と同等の結果」である。

・問題別に見ると、「図形」「関数」が全国を上回っているが、「数と式」、「データの活用」は全国を下回っている。

・観点別(学力の要素)で見ると、「思考・判断・表現」は全国を上回っているが、「知識・技能」は全国を下回っている。

##### (理科)

- ・全国と同じ正答率であり、県をわずかに下回る。
- ・全国平均の5%以内にあることから、「ほぼ全国と同等の結果」である。

・問題別に見ると、「静電気」や「化学反応」に関するものは全国を上回っているが、「気象」や「物質の変化(液体→気体)」に関するものは全国を下回る。



・観点別(学力の要素)で見ると、「知識・技能」は全国と同水準だが、「思考・判断・表現」が全国を若干下回る。

※「ほぼ全国と同等」という表現が出てきますが、これは実施主体の文部科学省が示している「全国平均の前後5%以内は全国とほぼ同等の水準である」旨の見解に基づいています。

## 2. 質問紙調査

生徒の学習環境や生活環境を把握するために、全69問からなる質問紙調査(アンケート)が行われました。以下に、全国や県と比べて、良い状況であった事柄(質問項目)を、次に課題となる事柄(質問項目)を示します。

(本校の良さ)



- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う
- ・困りごとや不安がある時は、先生や学校にいる大人に相談する
- ・学校に行くのが楽しい
- ・友だちと協力するのは楽しい
- ・読書が好き
- ・学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ
- ・国語や数学、理科の勉強は大切だと思う

- ・普段、1日当たり3時間以上、ゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、スマホや携帯を使ったゲーム)をする
- ・家で自分で計画を立てて勉強をする
- ・平日に、1日当たり学校の授業時間以外に2時間以上学習する(塾・家庭教師を含む)
- ・土日に、1日当たり3時間以上学習する(塾・家庭教師を含む)

(本校の課題)



全国・県と比較した、本校の良さや課題を眺め渡すと、大きな特徴が見えてきます。端的に言うと、

- 学校生活については、学校に行くことが楽しい生徒が多く、友達や先生との関係もよい。
- 学習面については、勉強の大切さをよく分かっておりタブレットなどを授業に使うのに積極的であるが、家庭ではゲームなどをする時間が多いこともあり、家庭学習の時間が少なく、習慣化もしていないとなります。

## 3. 課題の改善のために

### (1) 各教科について

問題別の視点では、それぞれの教科において、本校の生徒の正答率が低いとされた、学習事項(領域・単元)については、3年生においては、復習や今後学習予定の事項との関連の中で定着を図っていくとともに、全学年で共有する中で、1・2年生の授業における指導にも生かしていきます。

また、観点別(学力の要素である、「思考・判断・表現」と「知識・技能」)の視点では、教科により、「思考・判断・表現」が比較的強い(弱い)教科と「知識・技能」が比較的強い(弱い)教科に分かれましたが、今回調査の対象となった教科(国・数・理)に限らず、全教科の授業において、いわゆる「習得」(主に、知識・技能)と「活用」(主に、思考・判断・表現)のバランスのとれた授業を行っていきます。

また、昨年度より、1人1台端末(クロムブック)を授業で活用していますので、この効果的活用をさらに進め、一人ひとりの学力の向上につなげていきます。

### (2) 学習習慣・生活習慣について

家庭での学習習慣の定着が課題となっていますが、昨年度の調査でも同様の傾向が出ており、今年度に限らない本校の課題であると考えています。一方で、授業でのICT活用が進んでいることやICTの学習における効果を感じている生徒が多いという本校の生徒の強みを生かして、1人1台端末(クロムブック)の持ち帰りも視野に入れた家庭学習の習慣化について検討していきたいと考えています。

また、家庭でのゲームやインターネット・スマホの使用時間が長いことも課題となっていますので、これまで行ってきた「ノーメディアday」の取組を継続するとともに、メディアとの付き合い方(メディア・コントロール)について考える機会を設けていきたいと考えています。

ぜひ、ご家庭でも、学習習慣の定着とメディア・コントロール(ゲーム・スマホ・インターネットとの付き合い方)について、お子さんの様子を把握していただき、指導をお願いします。